

京丹後市観光振興計画 (案)

『極上のふるさと観光づくり』



平成21年5月

京丹後市

はじめに

＜市長のあいさつ文が入ります＞

< 目 次 >

はじめに

序 計画概要

1 計画の目的	3
2 計画の内容	3
3 京丹後市観光立市推進条例	5
4 検討体制	5

第1章 現状と課題

1 一般的な観光動向	7
2 京丹後市の観光の現状	9
3 観光振興の課題整理	21

第2章 将来ビジョン

1 コンセプト	23
2 目標数値	23
3 基本方針	24

第3章 アクションプラン

1 アクションプランメニュー	26
2 戦略プロジェクト	32

第4章 地域別計画

1 地域別計画の目標とテーマ	35
2 地域別計画	36

<参考資料> ※添付予定

- 1 京丹後市観光立市推進条例
- 2 計画策定の経緯
- 3 観光データ
- 4 観光関連事業の補助メニュー・関係法令
- 5 意見集

序 計画概要

1 計画の目的

京丹後市の観光産業は、夏季の海水浴、冬季のカニを中心に、昭和50年代から平成10年頃までは大きく成長し、平成10年には年間観光入込客数が220万人、年間観光消費額は103億円（1人当たりの消費額4,624円）にまで達しました。

しかし、近年の少子化と海水浴離れ、カニによる誘客がピークを過ぎたことに加え、旅行形態の変化、旅行ニーズの多様化、国内観光地の競争激化、海外旅行の増加、停滞する経済状況などの要因により、平成17年以降の観光入込客数は200万人を切るなど、大変厳しい状況にあり、新たな観光の魅力づくりや観光戦略が求められています。

そこで、平成20年4月に京丹後市観光協会が発足し、推進基盤が整備されたのを機に、本市の豊富な観光資源を活かした総合的・効果的な観光振興をより一層推進し、観光立市の実現を目指すため、京丹後市観光立市推進条例の趣旨に基づいた京丹後市観光振興計画（以下「計画」という）を策定するものです。

2 計画の内容

(1) 明らかにすべき計画の内容

①京丹後市の観光の現状と課題を明らかにします

- 観光入込客数、観光施設の利用、観光資源、主要観光施策などの状況、現状を明らかにします
- 観光振興の課題は何かを明らかにします

②将来ビジョンと目標を明らかにします

- 観光振興のコンセプトを明らかにします
- 将来の目標を明らかにします

③実行性のある「アクションプラン」と「地域別計画」を明らかにします

- 5つの基本方針と、それに基づく「アクションプラン」を明らかにします
- 地域の現状と特色を活かした「地域別計画」を明らかにします

(2) 計画の位置づけ

①関連計画等との整理

- 観光立国推進基本法・観光立国推進基本計画【国】

平成19年1月に施行された「観光立国推進基本法」に基づき、観光立国の実現に関する諸施策の総合的かつ計画的な推進を図るために策定された「観光立国推進基本計画」の基本的な方針（以下のとおり）、内容との整合性に留意しました。

- ・国内旅行及び外国人の訪日旅行の拡大と、国民の海外旅行の発展
- ・将来にわたる豊かな国民生活の実現のため観光の持続的な発展を推進
- ・地域住民が誇りと愛着を持つことのできる活力に満ちた地域社会の実現
- ・国際社会における名誉ある地位の確立のため平和国家日本のソフトパワー強化に貢

○京都府アクションプラン【京都府】

平成20年度に改定された「京都府アクションプラン」の重点施策（以下のとおり）、内容との整合性に留意しました。

- ・「日本の心にふれる旅」誘客プロジェクト
- ・プロジェクト実施のための基盤づくり
- ・来訪者に優しい京都ならではの「もてなし」の充実

○丹後地域観光振興プラン【丹後広域観光キャンペーン協議会】

平成17年度に策定された「丹後地域観光振興プラン」のコンセプト、推進方針（以下のとおり）、内容との整合性に留意しました。

- ・コンセプト 「私のふるさと丹後 発見！」
—うみ・さと・やまの癒しと健康のふるさと観光—
- ・推進方針 「丹後の観光力を高めよう！」

○京都府丹後観光圏整備実施計画【丹後広域観光キャンペーン協議会】

平成20年10月に国の認定を受けた、丹後3市2町で実施する「京都府丹後圏整備実施計画」の目標、事業との整合性に留意しました。

- ・事業名 丹後の海、山、里の多様な魅力を活かした「ふるさと観光」による滞在力強化事業

○第1次京丹後市総合計画【京丹後市】

平成17年度に策定した「第1次京丹後市総合計画」にある観光振興施策の方針（以下のとおり）、内容との整合性に留意しました。

「感動半島・京丹後」の実現／歴史文化の保全と活用／観光資源のネットワーク／四季型滞在観光の推進／健康志向に対応した観光の推進／環境先進地としてのエコツーリズムの推進／情報発信の強化／交流の機会づくり

○京丹後市まちづくり基本条例【京丹後市】

平成20年に施行された、「京丹後市まちづくり基本条例」に謳われる、まちづくりを進めていくうえでの基本的な考え方やルールに留意しました。

②計画の位置づけ

○計画の役割

京丹後市観光立市推進条例の趣旨に基づき、観光立市の実現に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための具体的な取り組みとして、計画を策定しました。

○計画期間

計画は、すぐに実行に移すことができ、実効性の高いものとする必要があること、また、観光を取り巻く情勢が刻々と変化することから、その期間を3年間（第1次計画期間：平成21年度～23年度）と設定し、3年ごとに見直すものとします。

○計画の意味・意義

- ・計画は、テーマ毎の施策提案である「アクションプラン」、地域の課題及び特徴を活かした「地域別計画」が中心となっています。
- ・「アクションプラン」及び「地域別計画」は、重点メニューを優先的に実施するものとし、その他についても、3年以内に実施または着手することを目標とします。
- ・今回の第1次計画は、次期以降も見据えたベースになるものと位置づけ、3年以内に実施または着手できなかったプラン等については、必要に応じて次期計画に繰り越すものとします。
- ・まず、市、市民、観光事業者、観光関係団体が計画の内容を十分に認識し、そして「観光立市の実現」という目標に向かって、それぞれの立場で「実行」に移すことが最も重要であると位置づけます。

3 京丹後市観光立市推進条例

京丹後市観光立市推進条例（以下「推進条例」という）は、観光立市を実現するための基本理念を定め、市の責務、市民、観光事業者、観光関係団体の役割を明らかにするとともに、観光立市の実現に関する施策の基本となる事項を定めたもので、京丹後市議会（観光振興条例調査特別委員会）により提案され、平成21年3月に制定、同4月1日に施行されました。

計画は、推進条例の趣旨に基づくものであり、内容についても整合性を図りました。

※推進条例の全文は参考資料を参照

4 検討体制

市内観光関係団体及び商工関係団体、観光事業者、行政等の代表者、有識者による「（仮称）京丹後市観光振興条例・観光振興計画検討委員会」（以下「検討委員会」という）を平成20年8月に組織し、計画の策定内容を検討しました。

検討委員会には部会を設け、専門的な検討を行いました。

(1) 検討委員会委員選出団体

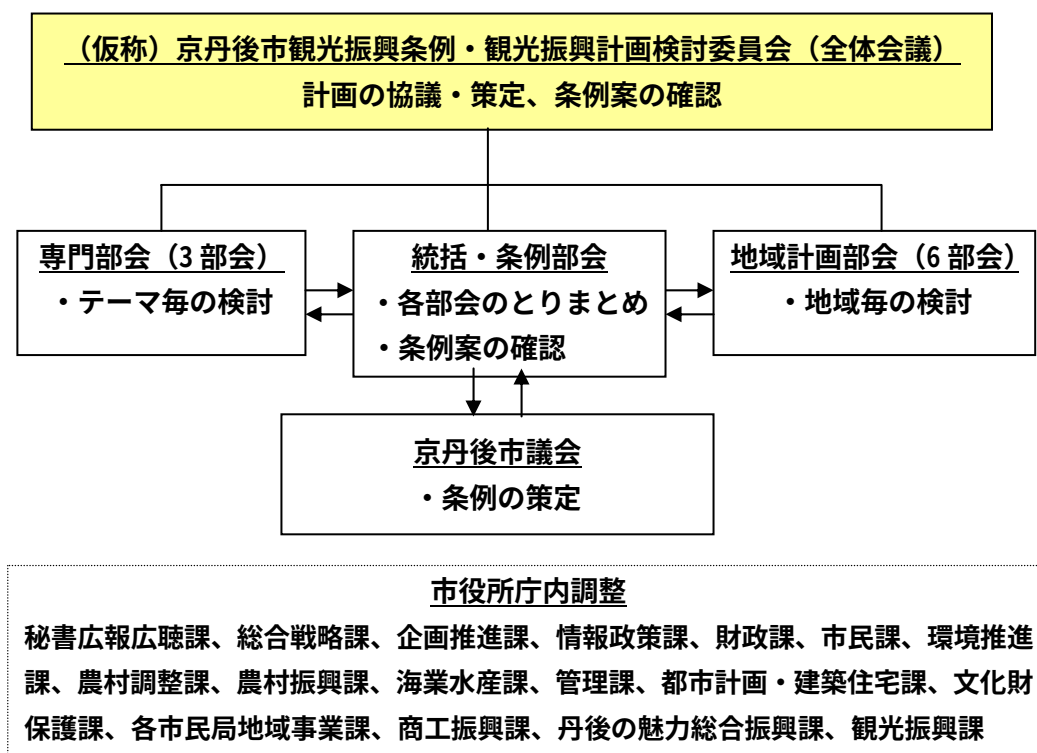
京丹後市観光協会、京丹後市商工会、NPO法人全国まちづくりサポートセンター丹後支所、京丹後^⑩おかみさんの会、市内観光施設、観光事業者、有識者（市内各地域代表、大学教授等）、京都府、市関係課

(2) 部会組織と検討内容

部会名称	検討内容
統括・条例部会	各部会のとりまとめ、条例案の確認
地域計画部会（6）	地域（旧6町）ごとの計画案
宿泊・施設部会	宿泊、観光施設、温泉、もてなし等に関する計画案
情報発信・交通部会	広報、サイン、イベント、交通等に関する計画案
商品開発部会	食、土産物、体験、観光資源活用等に関する計画案

(3) 検討組織図

◇図－1 （仮称）京丹後市観光振興条例・観光振興計画検討委員会 検討組織図



※ 会則、委員名簿、検討経緯は参考資料を参照

(4) 計画の推進及び見直しの検討

京丹後市観光立市推進会議を設置し、計画の進捗状況、推進についての確認と協議を行うとともに、計画の見直しについて検討を行います。

※京丹後市観光立市推進会議の組織等については、参考資料「推進条例」を参照

第1章 現状と課題

1 一般的な観光動向

(1) 観光政策の動向

①観光は、地域づくりの基本的なテーマです

観光という語源は、中国の古い書物に「国の光を観る。」と記されています。観光の「光」とは、景色の意味ではなく、国や地域が持つ光、文化や芸術などの様々な魅力を観るということであり、地域の側からすると「魅力ある資源を発見し、磨き上げ、観てもらふ知恵」のこともあります。観光は旅人が他の地域を訪ね、その地方にしかない、その地方にだけある知恵と工夫を観る、それが観光の本来の意味である。観光を物見遊山の短絡的な遊びといった概念を捨てて、地域の活性化にとって取り組まねばならない永遠のテーマであることが古い時代の語源からも推察されます。

②観光は国の基幹産業として位置づけられています

先進諸国やアジアの近隣諸国では、観光産業は国家にとって重要な基幹産業と位置づけられ、組織としての観光省、その長としての観光大臣があり、税金の投入対象として国策が展開されています。特に、東アジア地域は、世界の観光産業をリードする需要が見込まれ、観光需要が急速に拡大しつつあります。

③国においても観光庁が設立され、観光が重要な政策課題となってきました

昨年、10月に国においても観光庁が設立され、観光立国推進基本法などの法制度に基づき、国内外における観光振興を本格的に図る体制が整い、事業が進められるようになってきました。観光立国の基本は『住みたいところが、訪れたいところ』が目標に掲げられており、観光は全国で地域資源を活かし、国際的な競争の時代に入っています。

(2) 観光マーケットの動向

①インバウンド（外国人旅行者の誘致）志向

観光のグローバル化により、観光客は国内だけでなく海外からの観光客も視野に置く必要がでてきています。既に、九州の観光地では2～3割は近隣のアジア諸国からの観光客で占められており、観光は海外からの観光客を対象とするインバウンドの時代を迎えています。

②ターゲットとしてのアクティブシニア志向、女性志向

観光客のターゲットは、団塊の世代が退職期を迎えることから、中高年の需要が顕著となっています。特に、健康で積極的な人生を楽しもうとするアクティブシニア（活

動的な中高年）は、時間と経済的な余裕を背景に注目されています。また、観光需要を牽引する女性の感覚に訴えることも重要になっています。

③個人旅行志向

観光形態は、団体観光を中心とした量的に対応することから、個人旅行を中心としたきめ細かい対応が必要となっています。個人対応のサービス、ホスピタリティなど、心の感動につながる内容が求められています。

④着地型観光志向

地域の資源を活かした魅力ある観光商品の提供は、地域の人々が提供してはじめて実現できることから、観光客が出発する需要地の旅行会社が造成するには限界があります。また、発地の旅行会社がリードすると、地域の観光産業への寄与は軽減される恐れがあります。このため、地域の旅行会社が主導する着地型の観光が徐々に増加しています。

(3) 観光活動の動向

①オンリーワン観光

どこにでもある観光商品や土産物への人気は継続せず、そこにしかない資源を活かして、それを目的に観光客がやってくるオンリーワンの観光内容が求められるようになっていきます。地産地消によるそこにしかない食の提供もそのひとつです。

②滞在生活観光

観光は、短時間でできるだけ多くの施設などを巡る観光から、ゆっくりと滞在し、まるでそこに住んでいるかのような生活感覚のある観光が高い評価を得ています。

「住んでよし」の魅力に自信を持って観光につなげていくことが重要になっています。

③体験観光

観光施設や資源を見るだけでなく、実際に参加して、体を使って経験することによって、臨場感のあるほんまもんを味わえる観光商品が求められています。特に、地域の魅力を伝える人材として、観光ガイドの重要性が高まっています。

④まち歩き観光

スローライフは観光の場面でも求められており、地域の文化や生活が集合している「まち」には、歴史・文化資源や街並み、祭り、食事処などが集積しており、これらをじっくり歩いてその場の空気を感じる観光が人気になってきています。

⑤泊食分離の地域観光

これまでの宿泊形態は、一泊二食による料金設定が主流でしたが、夕食はできるだ

け地域の人々と同じ食事を希望する、宿泊と食事を別々にする泊食分離の形態が人気を得ています。地域の料亭や食堂などが観光客にサービスできること、二泊目は外食で対応できるという点が滞在型観光にもメリットがあります。

2 京丹後市の観光の現状

(1) 概況

①京丹後市の概要

- 市制施行 平成16年4月1日
- 面積 501.84平方キロメートル
- 人口 ・ ・ ・ ・ ・ 人（平成21年3月末現在）

京丹後市は日本列島のほぼ中央、京都府北部の日本海に面する位置にあり、美しい海岸線や四季の表情豊かな自然、豊富な温泉、新鮮な魚介類やお米、果物などの海の幸や山の幸、そして歴史と伝説、文化にあふれ、あらゆる観光資源に恵まれています。

しかし、これらの豊かな資源を有しながら、そのポテンシャルを活かしきれていないのが現状です。

②観光地としての「京丹後」

観光地としては、古くから夏季の海水浴スポットとして賑わいを見せ、昭和末期からは、冬季の「カニと温泉」による戦略が功を奏し、大きく成長を遂げました。

しかし、「夕日ヶ浦」や「間人ガニ」などの名称は有名になったものの、合併して間もない「京丹後市」は、京阪神では観光地として一定の認知をされているものの、首都圏など全国での知名度は低く、近隣の観光地「城崎温泉」、「天橋立」と比較してインパクトが弱いことは否めません。

③観光形態

観光客は夏季、冬季とも京阪神地方からの客が中心で、交通アクセスの改善により日帰り客が増加傾向にあります。また、宿泊については1泊が中心で、滞在時間は短く、城崎、出石、天橋立など近隣の観光地へ移動するパターンが多く見受けられます。

④アクセス状況

京都縦貫自動車道などの道路整備が進み、京阪神地方からのアクセス条件は改善されてきました。しかし、最大マーケットである首都圏からのアクセス条件は悪く、今後、首都圏からの誘客を推進させるためには、飛行機などによるアクセスの改善が望まれるところです。

○アクセス所用時間

■大阪、神戸、京都から

- ・車、列車で約2時間30分 ※宮津天橋立I.Cから40分

■東京から

- ・車（東名高速、名神高速、北陸道経由）で約8時間
- ・列車（新幹線利用）で約5時間
- ・飛行機（大阪空港、コウノトリ但馬空港経由）で約3時間30分

■近隣観光地から

- ・天橋立から車で40分、丹後半島1周ルートで2時間
- ・城崎温泉から車で50分

■関西国際空港から

- ・車（近畿道、中国道、舞鶴道、京都縦貫道経由）で約3時間30分

◇図－2 京丹後市交通アクセス図



⑤市内観光地の状況

主な宿泊エリア及び温泉地は東西にわたる海岸沿いに広がり、海水浴、海岸景観を活かし、本市観光の中心を担っています。

一方、内陸部には豊かな自然を活かしたアウトドア施設、体験施設、農業公園、日帰り温泉施設などが点在し、観光エリアは市の全域に広がります。

広範囲にわたる観光地を周遊するための公共交通網の整備、観光地及び観光施設間の連携が今後の課題です。

◆図－３ 京丹後市観光マップ

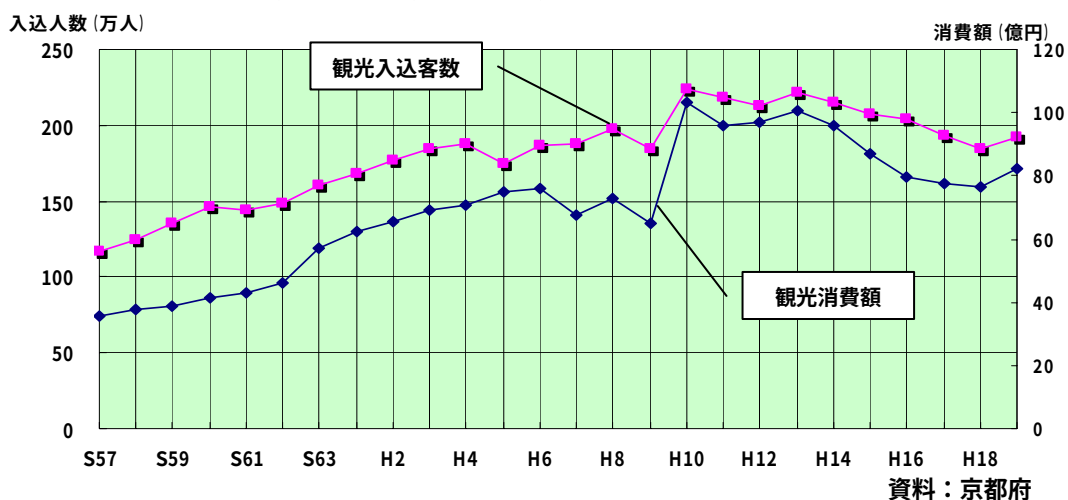


(2) 観光入込客数の状況

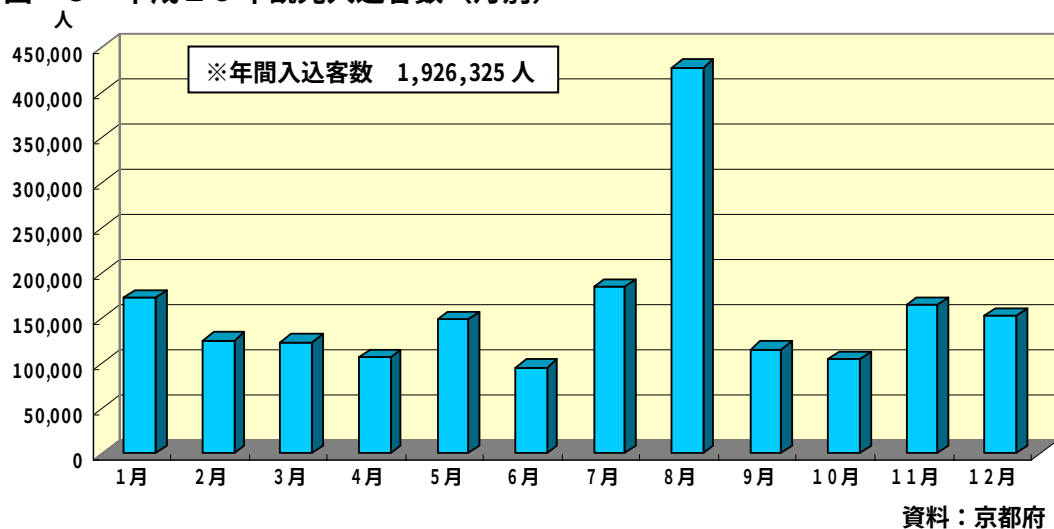
①観光入込客の状況と特徴

- 昭和50年代頃からの「カニ料理」と「温泉」を中心とした戦略が功を奏し、平成10年頃まで大幅に入込客が増加し、平成10年には年間入込客数が220万人に達しました。
- 近年は、海水浴離れ、カニのお客様がピークを過ぎたことに加え、旅行客のニーズの多様化、停滞する経済状況などの要因により、平成17年以降の入込客数は200万人を切るなど、減少傾向が続いています。
- 夏季の海水浴、冬季のカニを軸とした「2季型」の観光地で、4月、6月、9月、10月の入込客が少ない。
- 夏季、冬季とも京阪神地方からの観光客が最も多く、日帰りまたは1泊の短期滞在が中心です。
- 外国人観光客が少ない（外国人宿泊者数は宮津市の6%）。

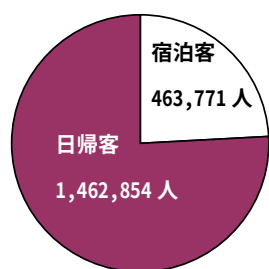
◇図－4 観光入込客数・観光消費額の推移（S57～H19）



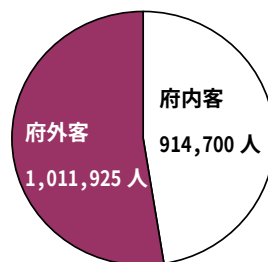
◇図－5 平成19年観光入込客数（月別）



◇図－6 平成19年観光入込客数（宿泊客・日帰客別、府内客・府外客別）



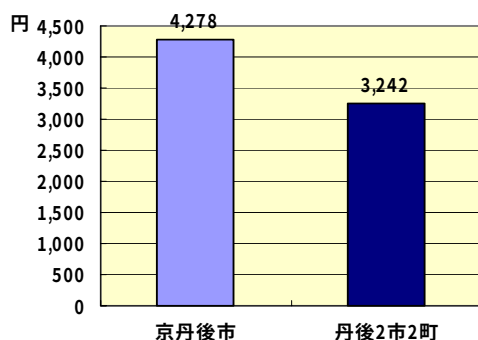
資料：京都府



資料：京都府

◇図－7

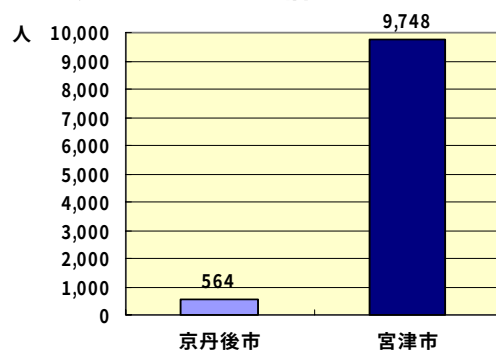
平成19年観光客1人あたり消費額



資料：京都府

◇図－8

平成19年外国人宿泊客



資料：京都府

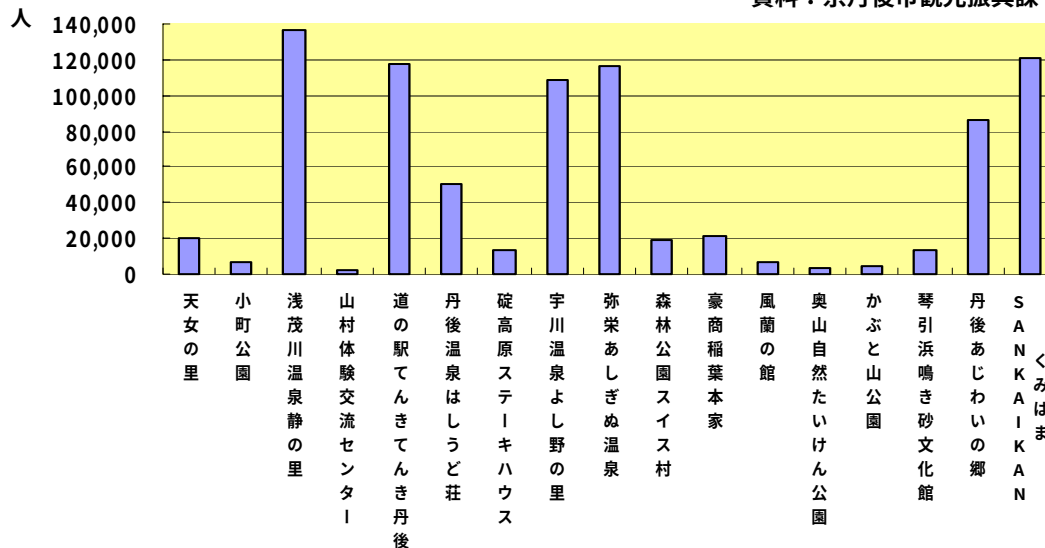
(3) 観光施設等の利用状況

①観光施設等の状況と特徴

- 公共観光施設については、平成18年9月から指定管理者制度を導入し、民間活力による利用増進を図っています。
- 種類別では、「アウトドア施設」がこの5年間ほぼ現状維持を保っているものの他については、市全体の入込客数同様減少傾向にあります。
- 海水浴場の入込客数は年々減少しています。昭和50年代と比較すると約半数であり、少子化、レジャー・休暇の過ごし方の多様化の影響が現れています。

◇図－9 平成20年主要観光施設の利用状況

資料：京丹後市観光振興課



③主要観光施設利用状況の推移

◇表－１ アウトドア・体験施設利用状況の推移

資料：京丹後市観光振興課

施設名	区分	16年	17年	18年	19年	20年
天女の里	入込客数	16,503	19,261	17,235	20,278	20,277
	対前年比	91.0%	116.7%	89.5%	117.7%	100.0%
森林公園スイス村	入込客数	18,450	21,737	19,714	14,191	19,201
	対前年比	63.4%	117.8%	90.7%	72.0%	135.3%
奥山自然たいけん公園	入込客数	3,193	3,133	2,860	2,863	3,044
	対前年比	117.3%	98.1%	91.3%	100.1%	106.3%
かぶと山公園	入込客数	5,607	5,610	5,017	4,679	4,562
	対前年比	71.1%	100.1%	89.4%	93.3%	97.5%

◇表－２ 宿泊施設利用状況の推移

資料：京丹後市観光振興課

施設名	区分	16年	17年	18年	19年	20年
山村体験交流センター	入込客数	4,769	3,209	3,714	3,313	2,433
	対前年比	92.7%	67.3%	115.7%	89.2%	73.4%
丹後温泉はしうど荘	入込客数	64,987	64,550	62,037	56,035	50,695
	対前年比	100.7%	99.3%	96.1%	90.3%	90.5%
宇川温泉よし野の里	入込客数	139,283	123,366	109,757	116,318	108,812
	対前年比	91.3%	88.6%	89.0%	106.0%	93.5%
風蘭の館	入込客数	8,167	6,963	6,719	6,542	6,367
	対前年比	102.0%	85.3%	96.5%	97.4%	97.3%

※全施設とも食事客、はしうど荘、よし野の里は外湯利用者を含む

◇表－３ 外湯施設利用状況の推移

資料：京丹後市観光振興課

施設名	区分	16年	17年	18年	19年	20年
浅茂川温泉静の里	入込客数	155,958	143,074	137,743	143,462	137,160
	対前年比	100.2%	91.7%	96.3%	104.2%	95.6%
弥栄あしぎぬ温泉	入込客数	127,496	113,059	107,514	111,077	116,648
	対前年比	93.3%	88.7%	95.1%	103.3%	105.0%
おおみや小町温泉	入込客数	72,407	70,912	66,858	63,243	65,615
	対前年比	94.1%	97.9%	94.3%	94.6%	103.8%

◇表－４ その他観光施設利用状況の推移

資料：京丹後市観光振興課

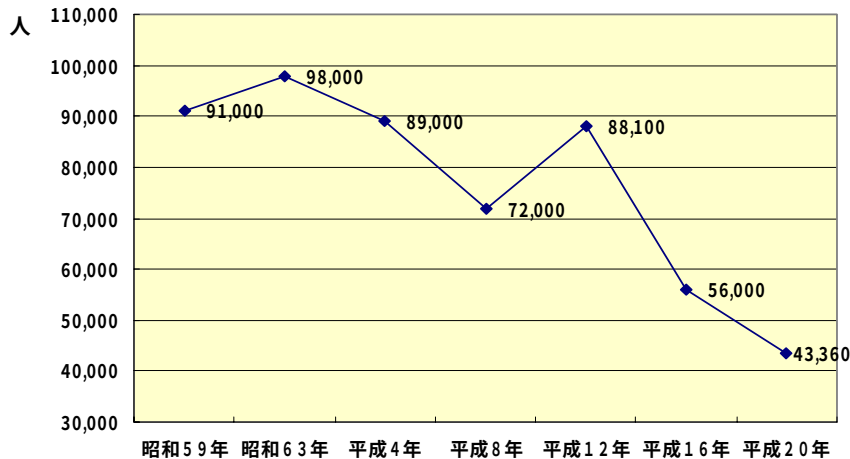
施設名	区分	16年	17年	18年	19年	20年
小町公園	入込客数	4,840	4,573	5,016	7,610	6,813
	対前年比	71.5%	94.5%	109.7%	151.7%	89.5%
道の駅てんきてんき	入込客数	148,882	134,684	121,176	131,976	117,464
	対前年比	97.2%	90.5%	90.0%	108.9%	89.0%
碓高原ステークハウス	入込客数	16,725	15,844	17,050	15,125	13,403
	対前年比	89.9%	94.7%	107.6%	88.7%	88.6%
豪商「稲葉本家」	入込客数	17,458	16,879	18,789	20,485	20,921
	対前年比	89.4%	96.7%	111.3%	109.0%	102.1%
琴引浜鳴き砂文化館	入込客数	13,369	14,752	14,021	15,074	13,613
	対前年比	82.8%	110.3%	95.0%	107.5%	90.3%
丹後あじわいの郷	入込客数	140,102	102,845	90,828	84,856	86,792
	対前年比	95.2%	73.4%	88.3%	93.4%	102.3%
SANKAIKAN	入込客数	92,494	103,980	114,621	112,774	120,797
	対前年比	88.0%	112.4%	110.2%	98.4%	107.1%

◇表―5 海水浴場入込客数の推移―1（全海水浴場、平成16年以降）

海水浴場名	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
浜 詰	48,400	33,300	38,800	44,160	48,134
浅茂川	18,400	20,300	17,700	18,500	16,650
小 浜	12,700	9,100	8,500	10,380	10,158
掛津・遊	56,000	52,500	39,900	47,130	43,360
砂 方	4,469	3,738	3,394	3,292	4,872
後ヶ浜	23,184	19,230	13,961	13,542	2,438
竹 野	1,757	1,410	1,054	1,022	1,308
中 浜	6,778	5,876	4,520	4,384	4,293
久 僧	2,571	2,127	1,868	1,811	2,628
平	32,272	30,060	22,208	21,541	30,804
蒲井浜	9,325	6,662	6,573	5,054	4,599
小天橋	31,890	22,850	28,931	34,666	34,319
葛野浜	18,515	14,470	17,710	29,975	28,177
箱石浜	2,996	3,358	2,756	2,107	1,854
合 計	271,737	223,453	218,397	254,374	259,295

資料：京丹後市観光振興課

◇図―10 海水浴場入込客数の推移―2（掛津・遊海水浴場、昭和59年以降）



資料：京丹後市観光振興課

(4) テーマ別の資源

海岸線のほとんどが国の自然公園に指定されており、経ヶ岬から丹後松島、屏風岩、立岩へと続く海岸景観、鳴き砂の浜で国の名勝・天然記念物に指定される琴引浜、「日本の夕陽百選」に指定される夕日ヶ浦、北近畿一のロングビーチで約6 kmも続く小天橋海岸などが特に美しく有名です。

山地には北近畿最大級のブナ林など緑豊かな風景が広がる一方、海岸線を中心に40ヶ所もの温泉に恵まれ、温泉宿、日帰り温泉とも充実しています。

また、日本ジオパークに認定される「山陰海岸ジオパーク」に市全域が含まれており、奇岩や断層など貴重で特色ある美しい地質遺産が各地に存在します。

豊かな自然がもたらす食にも恵まれ、秋には食味ランキングで特Aと評される丹後産コシヒカリが収穫され、冬は、有名なブランドガニ「間人ガニ」が水揚げされます。

歴史遺産・伝承も多く、日本海側最大級の網野銚子山古墳など数多くの遺跡があり、「古代丹後王国」が存在したとも言われる一方、静御前、細川ガラシャ、羽衣天女など、七人の姫物語「京丹後七姫伝説」が伝わります。

◇表－6 特徴的な観光資源

テーマ	観光資源の名称等	指定、登録等
自然	京丹後市全域の特徴的地質、地形	山陰海岸ジオパーク (日本ジオパークネットワーク委員会認定)
	八丁浜から経ヶ岬までの海岸及び一部山間部	丹後天橋立大江山国定公園
	八丁浜から久美浜までの海岸部	山陰海岸国立公園
	国道178号 (丹後町、網野町、久美浜町)	日本風景街道「古代ロマン街道」
	経ヶ岬灯台	日本の灯台50選、京都百景
	立岩・屏風岩・丹後松島・経ヶ岬の海岸景観	京都府景観資産
	丹後松島	京都百景
	立岩	京都百景
	琴引浜(鳴き砂)	日本最良・最大級の鳴き砂の浜、国指定名勝・天然記念物、日本の白砂青松百選、日本の渚・百選、残したい日本の音風景百選
	琴引浜の白砂青松と鳴き砂	京都府景観資産
	夕日ヶ浦の夕日	日本の夕陽百選
	小天橋	日本の水浴場88選、北近畿一のロングビーチ
	内山ブナ林	北近畿最大級の面積
	離湖	京都府内最大の淡水湖
	トウテイラン	近畿一の群生地、日本固有種
	温泉	源泉数京都府一、木津温泉は京都府最古
	郷村断層	国指定天然記念物
文化	袖志の棚田	日本の棚田百選
	久美浜湾の牡蠣の養殖景観	京都府景観資産、京都府文化的景観
	御旅市場	日本一短いアーケード
	丹後ちりめん	日本一の絹織物生産地
	琴引浜鳴き砂文化館	世界で唯一の鳴き砂専門の資料館
歴史	網野銚子山古墳	日本海側最大規模の前方後円墳、国指定史跡
	赤坂今井墳墓	国内最大級の方形墳墓、国指定史跡
	方格規矩四神鏡	日本最古の紀年銘鏡
	浦嶋伝説	日本最古の浦嶋伝説の地
	羽衣天女伝説	日本最古の羽衣天女伝説の地
食	丹後産コシヒカリ	食味ランキング最高評価「特A」ランク
	間人ガニ	こだわりのブランドガニ
	サワラ	漁獲量日本一

※テーマ別観光資源一覧は参考資料を参照

(5) 主要観光施策

第一次京丹後市総合計画では、観光の振興に関する「8つの施策方針」を打ち出しています。

施策方針ごとの主要な取り組み状況は次のとおりです。

①「感動半島・京丹後」の実現

事業名	実施年度	実施状況
山陰海岸ジオパーク推進事業	20～	地質遺産を活用した「ジオパーク」の世界登録を目指し、全国的、世界的な発信と観光資源としての保全に努める
農林水産業連携事業	19～	猪、鹿、サワラ、かにまんなどの新たな特産品の創出や、農家体験、漁業体験など各種メニューの実施
花めぐりパンフレット作成	19	市内の四季折々の花の名所、魅力を紹介するパンフレットを作成配布
丹後まほろばぐるり旅	17～	ボンネットバスを活用した市内観光ツアーの実施

②歴史文化の保全と活用

事業名	実施年度	実施状況
京丹後七姫パンフレット作成	18	市内に伝承されている七人の姫及びそのゆかりの地等を紹介するパンフレットを作成配布

③観光資源のネットワーク

事業名	実施年度	実施状況
観光フォトコンテスト	17・18	市内観光資源の再発見と入賞写真の活用による観光資源の効果的発信

④四季型滞在観光の推進

事業名	実施年度	実施状況
観光圏整備事業	20～	「観光圏」の国指定を受け、丹後3市2町で滞在型の観光地振興を目指し、広域による各種関連事業を実施
体験型観光推進事業	20～	体験型観光推進協議会を設立し、庁内、関係団体等と連携しながら四季を通じての体験メニューづくり等を行う
観光の魅力づくり等推進事業	16～	入湯税を活用した観光インフラ整備、観光振興に寄与するイベント等へ補助金を交付し、年間通じた観光振興を図る
あじわいの郷支援事業	16～	本市観光の中核施設であり、四季の自然の魅力あふれる丹後あじわいの郷の運営補助

⑤健康志向に対応した観光の推進

事業名	実施年度	実施状況
温泉活性化事業	18・19	温泉と地域観光資源を活用した健康づくりプログラムの開発及びモデルツアーの実施

⑥環境先進地としてのエコツーリズムの推進

事業名	実施年度	実施状況
環境PR及びエコ体験推進	16～	琴引浜の鳴き砂、エコエネルギー施設等を観光素材としてPRするとともに、環境学習ツアー、各種体験の実施

⑦情報発信の強化

事業名	実施年度	実施状況
観光パンフレット作成事業	16～	「ほんもの出会い旅」、「七姫伝説」、「花めぐり」、「湯けむり案内状」、「ステラ」(大河ドラマ「義経」「巧名ヶ辻」版)
HP発信事業	16～	京丹後市HPにおける「観光情報」の充実強化(スポット、イベント紹介、パンフレット電子ブック等)
観光サイン整備事業	16～	市内主要道路沿い、駅に統一デザインによる観光案内看板を設置し、市のイメージ発信、観光客の利便性向上を図る

⑧交流の機会づくり

事業名	実施年度	実施状況
イベント実施	16～	歴史街道丹後100kmウルトラマラソン、フェスタ飛天、ドラゴンカヌー大会など

(6) 観光客の評価

平成19年、兵庫県立大学経済学部(研究代表者 友野哲彦氏)による『持続可能な「海業」に関する調査研究』事業で実施された、京丹後市内宿泊客等を対象とした「アンケート調査レポート」(その中から下記調査を参照)を元に、本市観光客の評価について分析しました。

A 夏季宿泊客調査(以下、「夏季」という)

- ・ 実施日 平成19年8月1日～19日
- ・ 調査場所 久美浜町、網野町、丹後町の40ヶ所の宿泊施設
- ・ 調査対象 宿泊を伴う訪問者
- ・ 回収数 2,172組

B 冬季宿泊客調査(以下、「冬季」という)

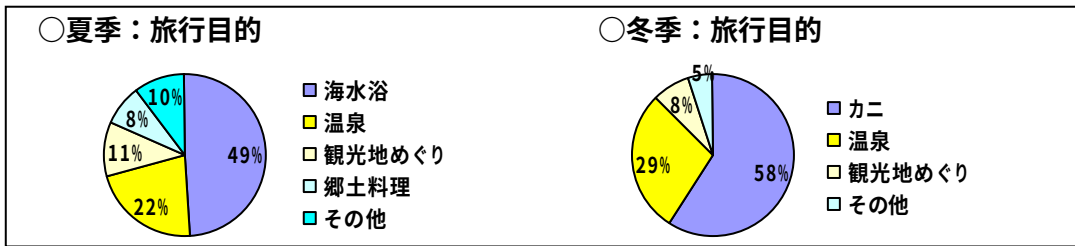
- ・ 実施日 平成19年11月16日～12月3日
- ・ 調査場所 夏季協力施設のうち回収率の高かった30施設
- ・ 調査対象 宿泊を伴う訪問者
- ・ 回収数 1,302組

C 都市部住民調査(以下、「都市部」という)

- ・ 実施日 平成19年12月10日～11日
- ・ 調査場所 WEB上
- ・ 調査対象 京都市、大阪市、神戸市在住者
- ・ サンプル 1,020

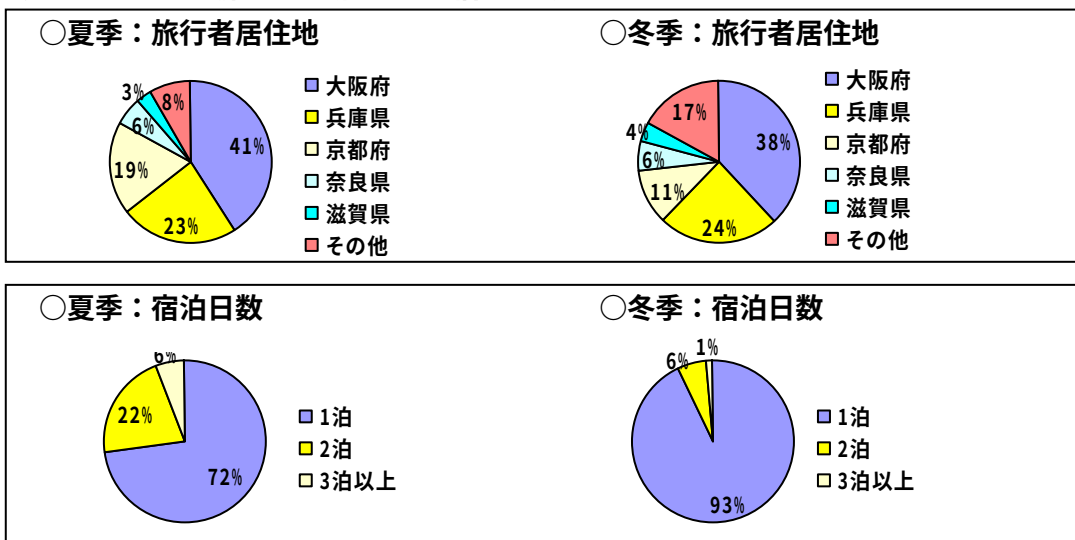
※グラフ数値は四捨五入しています

◇図 1 1－① 京丹後市への旅行の目的



夏季は、海水浴以外の目的も半数を占めますが、冬季はカニと温泉が大半を占めており、他の要素は非常に少ないことがわかります。

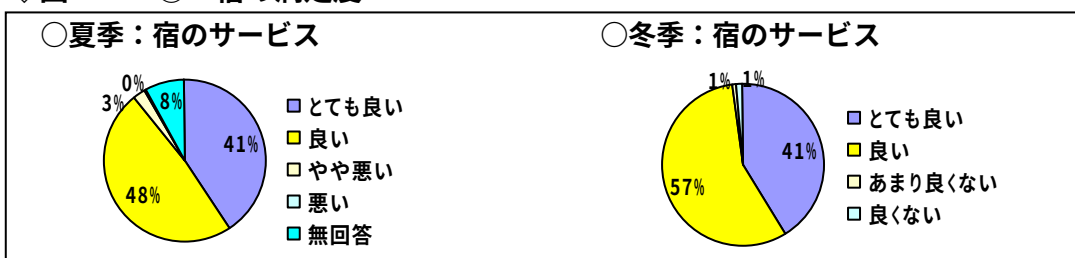
◇図 1 1－② 旅行者の居住地と宿泊日数



旅行者の居住地は、夏季、冬季とも、大阪府、兵庫県、京都府の順で、全体の7割～8割を占めます。特に、大阪府と兵庫県が約6割と圧倒的に多い。

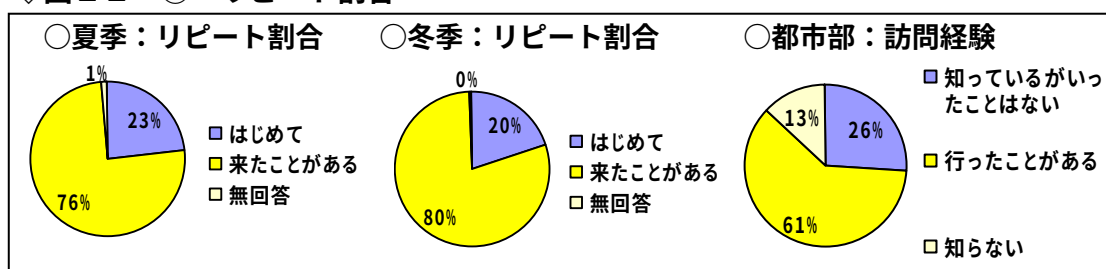
「今回の旅行全体での宿泊日数」の問いに対しては、「1泊」が圧倒的に多く、「京阪神地域からの1泊」が旅行者の大半を占めていることがわかります。

◇図 1 1－③ 宿の満足度



宿のサービスについて、夏季、冬季とも、「とても良い」、「良い」をあわせると9割以上に上ります。また、料理について、「満足」が夏季は約7割、冬季は約8割と非常に高く、宿の満足度は非常に高いことがわかります。

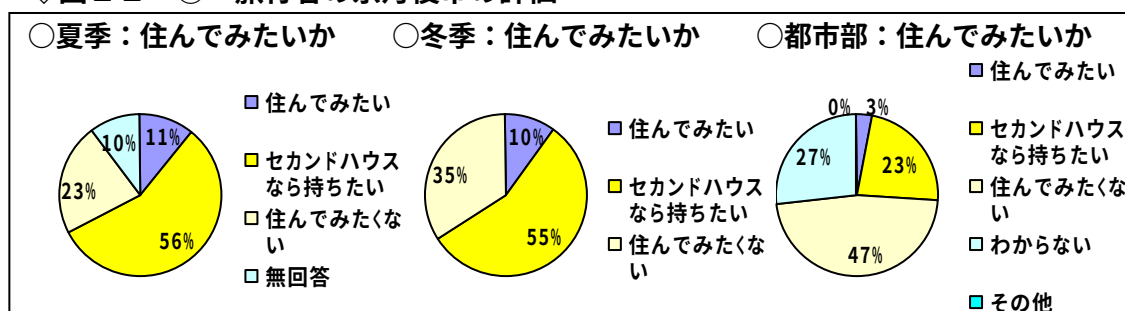
◇図11-④ リピート割合



「これまで京丹後市に来たことがありますか」の問いに対し、夏季、冬季とも7割以上の方が「来たことがある」と答え、リピーターの割合が非常に高いことがわかります。

また、都市部においても、「行ったことがある」が約6割を占める結果となっており、京阪神地域の住民にとって、京丹後市は身近な旅行先として認知されていることがうかがえます。

◇図11-⑤ 旅行者の京丹後市の評価



「将来、京丹後に住んでみたいと思いますか」の問いに対し、都市部では、「住んでみたい」2.6%、「セカンドハウスなら持ちたい」22.5%であるのに対し、実際に訪れた方を対象とした夏季、冬季では、「住んでみたい」約10%台、「セカンドハウスなら持ちたい」が55%台と、飛躍的に数値が高くなっています。

一度来た人に「住んでみたい」と思わせる魅力が存在することは確かです。

※アクセス手段

夏季、冬季とも「車（自家用車）」が約9割と圧倒的に多く、「鉄道」は4～5%と非常に少数であることがわかります。「観光バス」は夏季、冬季とも3位。

※情報ツール

1位は「インターネット」で、夏季は約4割、冬季は約3割と高い数値を示します。2位以下は、夏季は「雑誌」、「チラシ広告」、「口コミ」、冬季は、「口コミ」、「雑誌」、「チラシ広告」と続きます。

※周遊パターン

「他に訪れる観光地は」の問いに対し、夏季、冬季とも「天橋立」、「城崎」、「出石」

の割合が市内の観光地「琴引浜」、「夕日ヶ浦」、「経ヶ岬」等よりも総じて多く、市内で宿泊しても、滞在時間は短く、周辺の観光地へ移動する傾向が現れています。

3 観光振興の課題整理

(1) 総括的な課題

①観光による生活基盤の継承発展が早急に必要です

京丹後市の歴史に根ざしたふるさとの生活基盤が弱体化しつつあり、このままでは文化から自然にわたる地域の基盤が失われることが危惧されます。この現状を解決するため、観光により早急に地域生活の継承発展に取り組む必要があります。

②地域の資源、四季折々の魅力が十分に活かされていません

京丹後市には、豊富な海産資源に恵まれた日本海があり、これらと一体となった漁村、自然海岸が今も残されている。また、長い歴史に培われた農林業、ちりめん産業は先端産業にも受け継がれ、ものづくり文化として息づいています。

さらに、日本ジオパークに認定され、世界への発信も可能な「山陰海岸ジオパーク」の貴重な地質遺産もあり、これら魅力的な資源が単に残っているだけでなく、地域の誇りとして、ほんまもんを十分に活かし、未来につなげる観光価値を追及しなければなりません。

③もてなしの文化を発揮する必要があります

京丹後の風土は、人々をあたたくもてなす気質がありますが、観光の場面ではまだまだ十分に発揮されていません。来訪者の気持ちを大切に、普段の気持ちよい挨拶から接遇、道の案内など様々な点で改善の余地があり、これらに積極的に取り組むことが求められています。

④外国人旅行者を誘致し、国際観光を推進する必要があります

京丹後市の豊富な観光資源、それを活かした体験やエコの取り組みは、世界へ通用する可能性を秘めていますが、外国人旅行者は少ないのが現状です。今後は、国の政策と連動したインバウンド施策により、外国人旅行者の増加を図り、国際観光を推進する必要があります。

⑤地域の魅力・情報を効果的に発信することが重要です

魅力ある京丹後市の資源が十分に人々に伝わっていません。普段の当たり前のものであっても、遠方の人々には希少価値として評価されるものが質的、量的に多くあり、これらを限られた予算の中で効果的に活用していくことが求められています。個々の魅力ではなく市域全体で情報を共有し、展開していくことが必要です。

⑥アクセスの改善と地域内交通を充実させる必要があります

今後、首都圏からの誘客を推進するためには、飛行機など首都圏からのアクセス環境を改善することが重要です。また、市内観光地を結ぶ地域内交通を充実させることにより、観光客の利便性の向上と滞在の促進を図ることが必要です。

⑦地域や業界、市民が一体となって取り組む体制が必要です

6つの地域が合併してできた京丹後市は、地域や観光団体、市民も含めて一体となった観光を振興する体制が確立されていません。事業を推進していくには、地域、業界など関係者が一体となった取り組み体制が必須です。

(2) 地域別の課題

①峰山地域

都市的な集積が見られる京丹後市の中心地で、産業観光への取り組みをはじめ、社寺の歴史資源やスポーツ・文化施設などを活かし、観光への取り組み意識を高めつつ、まちと産業の観光魅力の向上に取り組む必要があります。

②大宮地域

沿道型の商業集積がある京丹後市の玄関口ですが、観光への意識はやや低く、交通便利性を活かした観光情報の提供や案内、トイレ等の施設整備、農業や自然を活かしたほんまものの観光への取り組みが必要です。

③網野地域

京丹後市で最大の宿泊観光拠点を形成しており、ホスピタリティ、食、温泉、まち歩き、自然の活用など、豊富な資源を活かして総合的な観光への取り組みを重点的に取り組む必要があります。

④丹後地域

丹後半島の海岸景観を活かし、食や漁村、漁港など、風情のある観光活動をじっくりと、また周遊する楽しさを提供できるようにする必要があります。

⑤弥栄地域

農林業の魅力や高原の施設、伝説などの物語を活かし、ゆっくりと地域の魅力を楽しむ観光地づくりを行う必要があります。

⑥久美浜地域

久美浜湾の穏やかな自然景観などの魅力を活かし、街並みと歴史、食を楽しめる滞在時間の長い観光活動に誘導する必要があります。

第2章 将来ビジョン

1 コンセプト

『極上のふるさと観光づくり』

全市域のあらゆる資源を観光に結びつける
「京丹後まるごと観光」

京丹後市には、自然、温泉、味覚、歴史、文化など素晴らしいふるさとの資源が市域全体にわたり存在し、地域の将来の発展に向けては、これらの貴重な資源を活かして、観光を振興することが最重要な課題です。観光なくして京丹後市の発展はないことが出発点です。

そして、京丹後市の観光は、観光客のための観光ではなく、ふるさとを守り、育てる地域のための観光にこだわる、「住んでよし、訪れてよし」の観光地を目指します。

このため、観光関係者だけでなく、行政はもとより市民が参加し、地域が一体となって、観光の可能性を最大限に追求するため、全国でも希な質をもった『極上のふるさと』を目指した観光地づくりに取り組みます。極上のふるさと観光づくりは、これまでの曖昧で漠然とした観光から脱皮し、限られた人、もの、情報、資金の集中と選択を行い、戦略的に観光ビジネスを創造し、地域の雇用の増大と幅広い分野にわたる地域経済の活性化を図り、観光立市を実現します。

2 目標数値

□年間観光入込客数	現状 192万人 ⇒ 目標 220万人
□年間宿泊客数	現状 46万人 ⇒ 目標 60万人
□年間外国人宿泊客数	現状 564人 ⇒ 目標 2,500人

※現状は平成19年、目標は平成23年の数値です

3 基本方針とテーマ

基本方針 1 かけがえのないふるさとを守り育てる観光を目指します

市民にとっては、京丹後の海、山やまちはたったひとつしかないかけがえないふるさとです。

ここには、先代が残してくれた歴史、文化、自然があり、先ず、これらを守り育てる観光に取り組みます。

【テーマ】

- ①歴史遺産、地域の「宝」を活かします
- ②ふるさとの物語を伝え感動につなげます
- ③ジオパーク構想を推進し、豊かな自然を守り活かします

基本方針 2 地域資源を活かして未来を拓くほんまもん観光・体験を提供します

京丹後には、海、山、里の自然、農業、漁業、ものづくり、食、歴史、まちなどが織り成すここにしかない地域の資源が豊富にあります。

これらの資源にこだわり、活かして、地域の未来を築くために、ほんまもんの観光、ほんまもんの体験を提供します。

【テーマ】

- ①海の観光
- ②農の観光
- ③ものづくり観光
- ④まち歩き観光
- ⑤京丹後ブランドとなる土産物づくり

基本方針 3 京丹後人気質をもったもてなし観光と国際観光に取り組みます

京丹後人は、勤勉さ、こだわりの真摯さ、地域の結束力などの気質があり、この土地が先祖から受け継いできたところをもって、京丹後ならではの温かいもてなしを特徴とする観光を創ります。

また、「極上のふるさと」を積極的にアピールし、外国人旅行客の誘致に積極的に取り組みます。

【テーマ】

- ①味の極上地づくり
- ②ゆっくり滞在できる宿泊魅力の向上
- ③ホスピタリティの向上
- ④インバウンドの推進
- ⑤修学旅行の魅力づくりと誘致
- ⑥快適に移動できる交通環境・サインの整備
- ⑦環境に優しい観光活動の促進

基本方針 4 徹底したマーケティング手法で戦略的に情報を発信します

観光客のニーズを把握し、地域の資源を最大限に活かせるイメージやテーマ、ターゲットを絞り込み、優先順位、費用対効果などの視点から戦略的に情報を発信します。

【テーマ】

- ①観光マーケットへの感度向上
- ②訴求力のあるイメージづくり
- ③ターゲット戦略
- ④効果的な情報発信
- ⑤情報発信ツールの選択と集中

基本方針 5 地域が総ぐるみで観光に取り組みます

観光は地域が総ぐるみで競争する時代になっており、個々の事業者や地域だけでは限界があります。

各地域を越えて市域がひとつとなり、産官、業種、業界、年齢などを超えて観光に取り組みます。

【テーマ】

- ①総合的な観光推進組織づくり
- ②観光活動の原動力となる人材の育成
- ③観光立市推進条例との連携

第3章 アクションプラン

1 アクションプランメニュー

アクションプランメニューは、前章で述べた基本方針ごとに、市、観光関係団体、観光事業者、市民などが取り組むべき具体的な事業の提案で、3年以内に実施または着手することを目標とします。

「重点メニュー」（太字）は、その中でも特に重要と位置づけるものです。

基本方針 1 かけがえのないふるさとを守り育てる観光を目指します

テーマ① 「歴史遺産、地域の宝」を活かします	歴史の宝庫、京丹後の発信	
	1	・全国に発信できる歴史的な魅力、資源をさらに関係者で研究・協議する
	2	・代表的な古墳、史跡を絞り、見学できるための環境整備を行う
	3	・丹後生誕1300年(2013年)を記念したイベントの実施
	4	・歴史、文化、伝説などを紹介するシリーズ的なガイドブックの作成
	5	・社寺関係者との協力連携の推進
	地域の「宝」の活用	
	6	・「地域遺産」、「京丹後百景」などの登録制度の実施
テーマ② ふるさとの物語を伝え感動につなげます	7	・地域の祭を利用した観光客の誘致
	伝説・伝承の活用	
	8	・京丹後七姫を活用するために、ゆかりの地の環境整備
テーマ③ ジオパーク構想を推進し、豊かな自然を守り活かします	9	・代表的な伝説・伝承を絞ってPRしていく
	「山陰海岸ジオパーク構想」の推進	
	10	・貴重な地質遺産を世界に発信する「世界ジオパーク」登録に向けた取り組み及び「ジオサイト」を活用した特徴的な「ジオツーリズム」の推進
	豊かな自然活用	
	11	・「自然公園ふれあい全国大会」を機に散策コースの設定とガイド案内の実施
	12	・貴重な植物のある風景(トウテイラン、ユウスゲ、フクジュソウなど)の積極的な活用と、フクジュソウなどを地域で育て販売する仕組みづくりを行う

基本方針 2 地域資源を活かして未来を拓くほんまもん観光・体験を提供します

テーマ① 海の観光	漁業者と連携した海の体験の実施	
	13	・漁船等を活用した遊覧船やシータクシーの実施
	14	・各種漁業体験、漁港、セリ見学の実施と漁家民宿の取り組み推進
	15	・海業振興協議会による観光と漁業を結びつける検討、連携の推進
テーマ② 農の観光	農業者と連携した農業体験の実施	
	16	・農業体験、自然ふれあい体験の実施と、古民家等を利用した宿泊や農家民泊の実施
	17	・山間部で農業体験と海の体験などを組み合わせた1泊2日体験メニューの提供
テーマ③ ものづくり観光	機械金属工場の見学	
	18	・「丹後ものづくりパーク」を拠点とした機械金属工場の見学実施
	19	・機械金属業の土産物開発
	20	・関係者による協議会の設置とサポート体制の確立
	丹後ちりめん観光	
	21	・丹後ちりめんを活用した工場見学、小物づくりや和装の体験の実施
	22	・ちりめん製傘の貸し出し、着物が見える街並みの演出など、まち歩きとの連携
	23	・成人式用の着物が購入できる女性親子向けのツアーの実施
テーマ④ まち歩き観光	市内を周遊する観光ルートの設定	
	24	・各町の代表的なスポットを入れた「定番観光ルート」と、エリア別、所要時間別、テーマ別など、多種多様な観光ルートの設定
	地域文化にふれられる「まち歩きコース」の作成	
	25	・各町代表的な地域を絞ったまち歩きコースの設定と、コース内の順路標識、看板整備
	26	・自転車、ちりめん製傘の貸し出し、観光客と地元の人とのふれあい機会の設定など、地域の特徴、丹後の特色を活かした演出
	27	・まち歩きガイドの制度化と有効活用
	28	・空き家、空き店舗の有効活用の検討
	観光ルート、まち歩きコースの発信	
	29	・観光ルート、まち歩きコースをまとめたマップ集、ガイドを作成し、宿、観光施設等へ配置するとともに、WEB 配信を行う
テーマ⑤ 京丹後ブランド となる土産物づくり	土産物の改良・開発	
	30	・市の代名詞、顔となる代表的な土産物開発
	31	・機械金属業の土産物開発(再掲)
	32	・地場産業を活かしたちりめん製品、特に女性を結びつける製品の開発
	33	・サワラなどの水産加工品、くずナシなど果実の有効活用による特産品開発
	34	・土産物、特産品づくりに対する行政支援の確立
	土産物のPRと情報発信	
	35	・マスコミ、著名人を利用した商品PR
	36	・土産処マップの整備

基本方針 3 京丹後人気質をもったもてなし観光と国際観光に取り組みます

テーマ① 味の極上地づくり	カニの中心とした食の魅力	
	37	・冬でも他の食が選択できるコース、質重視コース、夏季限定のカニ料理など、カニメニューに多様性を持たせる
	38	・なぜ丹後で食べるカニがおいしいか、ストーリー性や五感で味わってもらえる工夫
	季節感ある食と地産地消の推進	
	39	・農業者、漁業者と観光業者とをつなぐ関係者による協議の推進
	40	・その日に収穫、出荷される商品がネット発信される仕組みづくりの検討
	41	・飲食店などにおける地産地消、丹後ブランド使用のPR（共通のれんの設置など）
	42	・山菜採りなど自然の恵みを活かした体験メニューの開発と食への活用
	43	・バラ寿司などの郷土料理、海、山、里の地元食材を活かした食づくり体験の実施
	44	・有害鳥獣を活用したシカ、イノシシ肉の活用
	45	・特産品化に取り組んでいるサワラを提供する食事処、土産物店、宿の増加を図る
	46	・丹後あじわいの郷に、丹後一円の食と土産物を集めて発信、販売する
テーマ② ゆっくり滞在できる宿泊魅力の向上	丹後観光圏で連携した宿泊・滞在の魅力づくり	
	47	・丹後観光圏での取り組みと連携し、丹後でのゆったりした過ごし方の提案、特色ある体験など、滞在、連泊の仕組みづくりと一体的な発信
	48	・民泊を推進し宿泊の新たな選択肢、ターゲットを広げる
	49	・「泊食分離」を増やすとともに、食事処マップ等、食事処の情報提供を行う
	50	・宿が営業マンになって、地域の観光の魅力を的確にPRすること
	数、種類が豊富な温泉のさらなる活用	
	51	・数・種類が豊富な温泉の街を一体的にPRする取り組み（「京丹後七湯」など）
	52	・長寿の里であることと温泉、薬草、運動、食などを組み合わせた健康、美容をテーマにした商品開発
	53	・飲用温泉水の販売
テーマ③ ホスピタリティの向上	観光業におけるもてなしの向上	
	54	・観光関係者全体でもてなしの資質向上に取り組む
	55	・宿、観光施設で統一のご意見箱を設置し、施設毎に分析と対応を実施
	市全体でのもてなし	
	56	・「もてなし大賞」の実施、学校、地域、企業等への協力要請など、市全体でのもてなしの意識の向上を図る
	57	・市民が地域に誇りと愛着を持ち、地域観光資源に関する知識の向上を図る
	58	・観光ガイドの有効活用、周知徹底を図る
	観光施設の整備活用	
	59	・観光施設間の連携を強化し、相互の利用促進、周遊を促進する
	60	・バスが停車できる場所、散策ルート上などへのトイレの整備と適切な管理
	61	・街の商店、宿、民家などを活用したお茶のみ処、トイレ処などの整備
	62	・丹後ちりめん資料館、野村克也記念館など新たな観光施設整備の検討

テーマ④ インバウンドの推進	インバウンドの推進と受入体制整備	
	63	・外国人から見た丹後の良い点を調査し商品戦略をたてながら、東アジアを中心としたプロモーション、誘致活動の実施
	64	・「山陰海岸ジオパーク」による世界的発信力を活かし、外国からの旅行者増加を図る
	65	・丹後広域観光キャンペーン協議会、豊岡市など広域連携による誘客の推進
	66	・外国語講座、接客のあり方など、研修機会を増やす
	67	・外国語パンフレット、ホームページ、サインの整備
	68	・人材バンクを設置して、通訳等を派遣できる仕組みをつくる

テーマ⑤ 修学旅行の魅力づくりと誘致	修学旅行の誘致	
	69	・環境の取り組み、地域の特色を活かしたほんまもん体験などを中心にPRし、積極的に修学旅行誘致を図る
	70	・外国からの教育旅行誘致を推進する
	71	・民宿等での「分宿」形態を地域で取り組み、地元の人とのふれあいをアピールする

テーマ⑥ 快適に移動できる交通環境・サインの整備	アクセス、丹後周遊の交通網整備	
	72	・京都縦貫自動車道、鳥取豊岡宮津自動車道の早期整備促進
	73	・コウノトリ但馬空港～羽田空港直行便の実現に向けた取り組み推進
	74	・丹後半島一周道路 (R178) の道路改良、城崎久美浜間の三原峠トンネルの早期着手を促進
	75	・「日本風景街道」登録 (R178 丹後町～久美浜町) を活かした道路環境整備
	76	・大宮森本 IC 完成を見越し、弥栄、丹後方面へのアクセスルート改善
	市内周遊手段	
	77	・観光施設間の連携を推進し、各施設を周遊する手段を検討する
	78	・上限 200 円バスの路線拡大、バス停増設に伴う、観光ルート、マップ作成
	79	・丹後地域広域での1日乗り放題パスの実施
	駅周辺整備及び KTR の活用	
	80	・駅施設、機能の総点検と必要な整備、適切な管理運営
	81	・KTR の着物着用者割引、バス周遊とセットにしたチケット発行など
	82	・主要駅を拠点としたレンタサイクルの実施と、「サイクルトレイン」の観光への活用
	観光サイン整備	
	83	・誘導看板、説明看板等の現状調査と計画的整備、老朽化看板の早期撤去
	84	・まち歩きコースへの歩行者用の誘導看板・説明看板の設置 (再掲)
	85	・丹後半島の西と (久美浜) と東の入口 (宮津市) に、「丹後半島」看板設置

テーマ⑦ 環境に優しい観光活動の促進	環境整備	
	86	・花運動、植樹、清掃活動を広げるため、助成制度など行政が情報提供、支援を行い、「市民花壇」、「企業花壇」などによる自主的な環境運動を推進
	87	・「年中きれいな海」を目指した海岸清掃の取り組み推進

基本方針 4 徹底したマーケティング手法で戦略的に情報を発信します

テーマ① 観光マーケット の感度向上	観光マーケティング	
	88	・市場ニーズや変化を把握できる定期的な調査や外部とのネットワークづくり
	89	・関係者の研究会、勉強会による現状に対する改善マインドの醸成
	90	・専門家などによる相談、アドバイス体制の確立
テーマ② 訴求力のある イメージづくり	イメージ戦略・キャッチコピー	
	91	・本市のイメージを戦略的にアピールするキャッチコピーなどの活用
	92	・「日本一」、「京丹後にしかない」ものを作り上げ、効果的な PR を行う
テーマ③ ターゲット戦略	ターゲットの設定	
	93	・国内ターゲットを関西圏から中京圏、関東圏へ広げる
	94	・アクティブシニアと女性を意識とした商品開発
	95	・「エコ」、「ヘルス」、「グリーン」など新たなツーリズムへの対応
テーマ④ 効果的な情報 発信	効果的な発信、PR	
	96	・市職員はもとより、全市民が営業マンとして市をPRする取り組みの推進
	97	・宿、観光施設などでのあらゆる観光情報の収集と提供を行うとともに、「まちの駅」制度による商店等からの情報発信とともなしの取り組み推進
	98	・フィルムコミッション設置など、映画、TVなどのマスメディアを活用した発信力の強化
	99	・ケーブルテレビ、コミュニティFMを活用した観光情報の発信と共有化
	100	・「ゆるキャラ」による発信
	101	・市入口へのインフォメーションセンター整備の検討
	102	・スポーツ施設の情報発信による大会・合宿の誘致
	103	・松本清張生誕100年(2009年)を記念した取り組みなど、京丹後とゆかりのある人物、出身著名人の活用、
	104	・京丹後ふるさと応援団、京丹後市博士、丹後ふるさと観光大使の積極的な活用
テーマ⑤ 情報発信ツールの 選択と集中	パンフレットの整備	
	105	・京丹後のすべてがわかる、マップ、周遊コースなども入った総合パンフレットの作成
	106	・外国語パンフレット(英語、中国語簡体、中国語繁体、ハングル語)の作成
	107	・テーマ別の周遊コース、各地域のまち歩きコースなどのマップ整備
	108	・歴史、文化、伝説などを紹介するシリーズ的なガイドブックの作成販売
	パンフレットの配布・活用	
	109	・市外(誘客促進)、市内(周遊促進)に分け、有効な配布・活用方法を検討する
	110	・学校、家庭などにも配布し、市民の意識、知識向上を図る。
	ITを活用した情報発信	
	112	・観光情報サイトを観光協会HPに一本化し、シンプルでわかりやすいものに整理
	113	・外国人観光客に対応する外国語版の観光情報サイト作成
	114	・すべての観光パンフレットをデジタルブック化し、WEB上で広く発信する
	115	・観光情報サイトをすべての宿、観光施設等へ広くリンクされるよう働きかける

	116	・市情報交流サイト「T-WAVE」を観光情報の発進、宿・観光業者等のPRに活用する
	117	・携帯電話での観光情報発信「携帯ナビ」の実施
	イベントの改善と発信強化	
	118	・既存イベントについて、観光振興の観点での工夫、見直しを検討する
	119	・イベント情報の収集、発信を的確に幅広く行う(各種HPでの発信、マスコミ活用)

基本方針 5 地域が総ぐるみで観光に取り組めます

①総合的な観光推進組織づくり	観光協会を中心とした推進体制づくり	
	120	・観光協会の体制強化と業務の整理・拡張
	121	・観光協会の業界参加を前提とした部会等の形成
	122	・宿泊、飲食、土産物、地産地消などのテーマごとの課題解決型の業界形成
	123	・観光ボランティアの充実、派遣体制の整備(丹後検定合格者の活用)
	丹後観光圏など広域連携による観光推進	
	124	・丹後広域圏整備事業、丹後広域観光キャンペーン協議会との連携、
	125	・豊岡市との連携
	126	・国、京都府、関西広域機構、北近畿広域観光連盟など広域組織との連携
	127	・JR、北近畿タンゴ鉄道、丹後海陸交通などの運輸機関との連携

②観光活動の原動力となる人材の育成	人材の育成	
	128	・実務面のプロパー人材の確保
	129	・ホスピタリティの向上体験勉強会
	130	・後継者の育成

③観光立市推進条例との連携を図ります	観光立市推進条例との連携	
	131	・観光立市推進条例を活かした規制と誘導
	132	・観光に対する市民理解の推進
	133	・まちづくり条例との連携

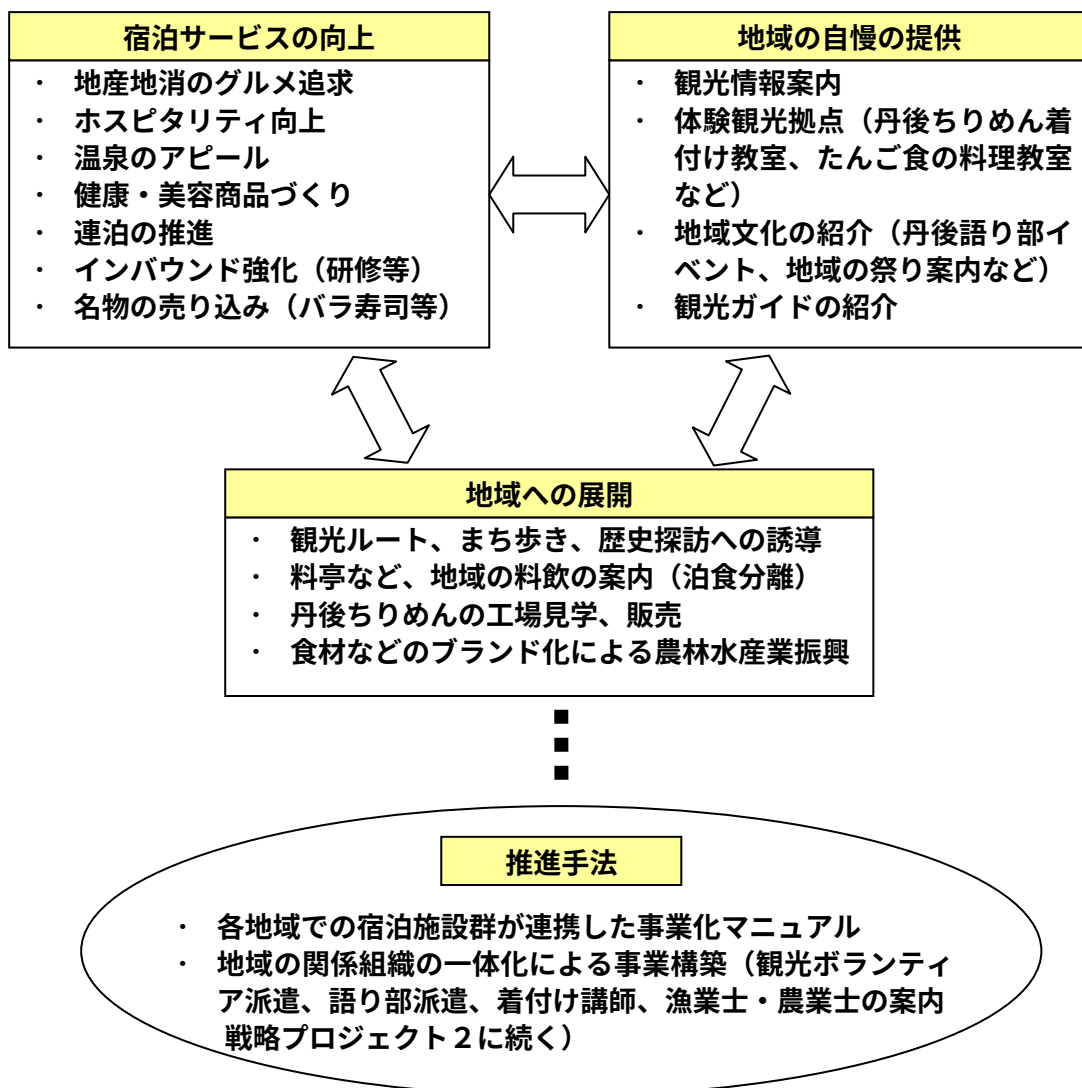
2 戦略プロジェクト

戦略プロジェクトは、多くのアクションプランを同時並立に進めるのではなく、キーとなる事業を核にアクションプランを組み合わせ、戦略的に総合的な効果を得ることをねらっています。

略戦プロジェクト 1 地域自慢の極上宿づくり

宿泊施設は、観光活動の中心的な役割を担う重要な拠点です。この宿に地域の自慢を持ち寄り、そこで魅力を体感し、さらに地域に総合的に波及していくことをねらうプロジェクトです。宿泊施設が、宿泊サービスの質の向上を目指すだけでなく、観光案内、情報拠点、体験観光の場などを通して、地域との連携を図ります。

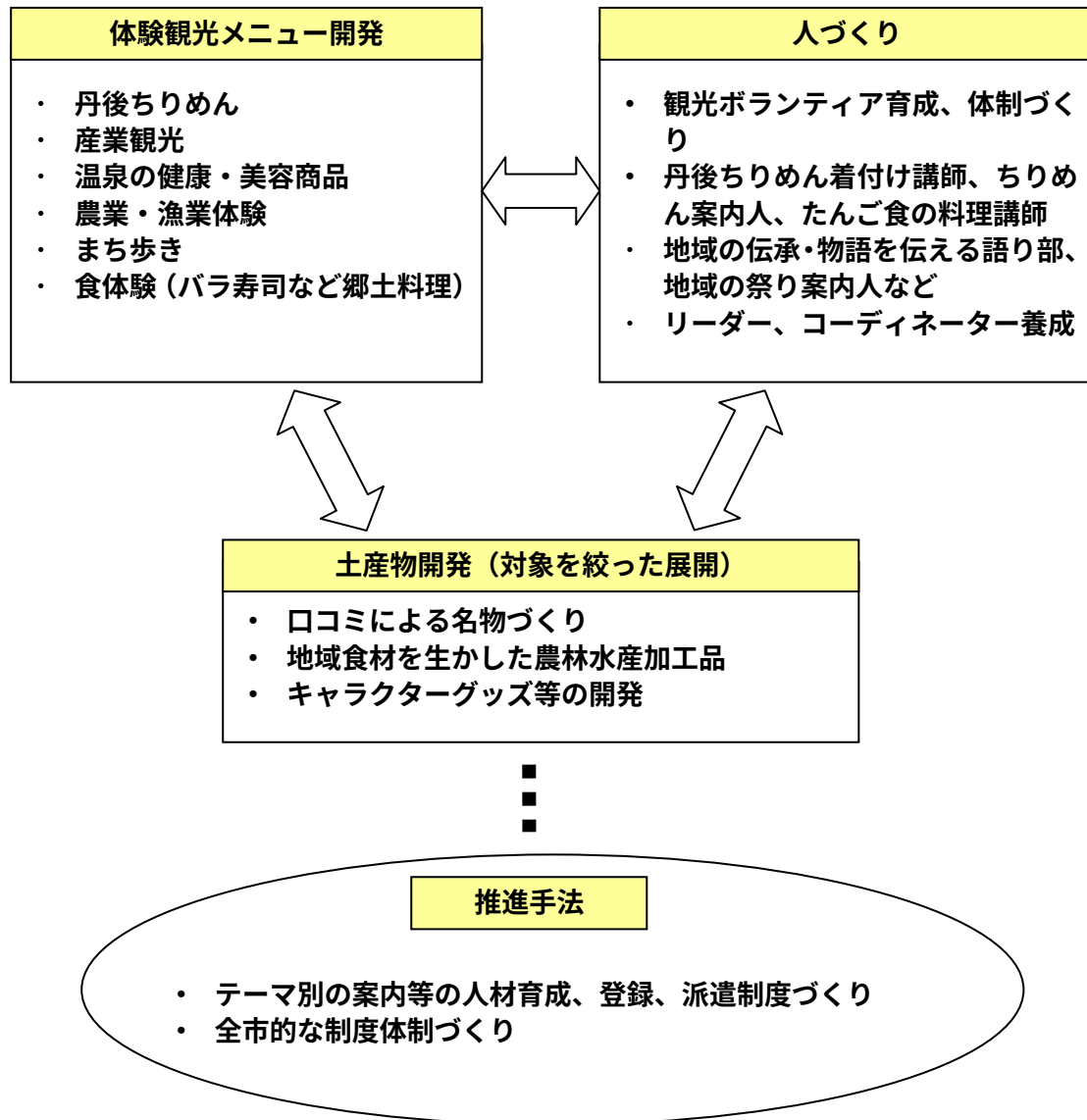
◇図12 地域自慢の極上宿づくり 戦略イメージ



戦略プロジェクト 2 手作り（極上）のふれあい観光

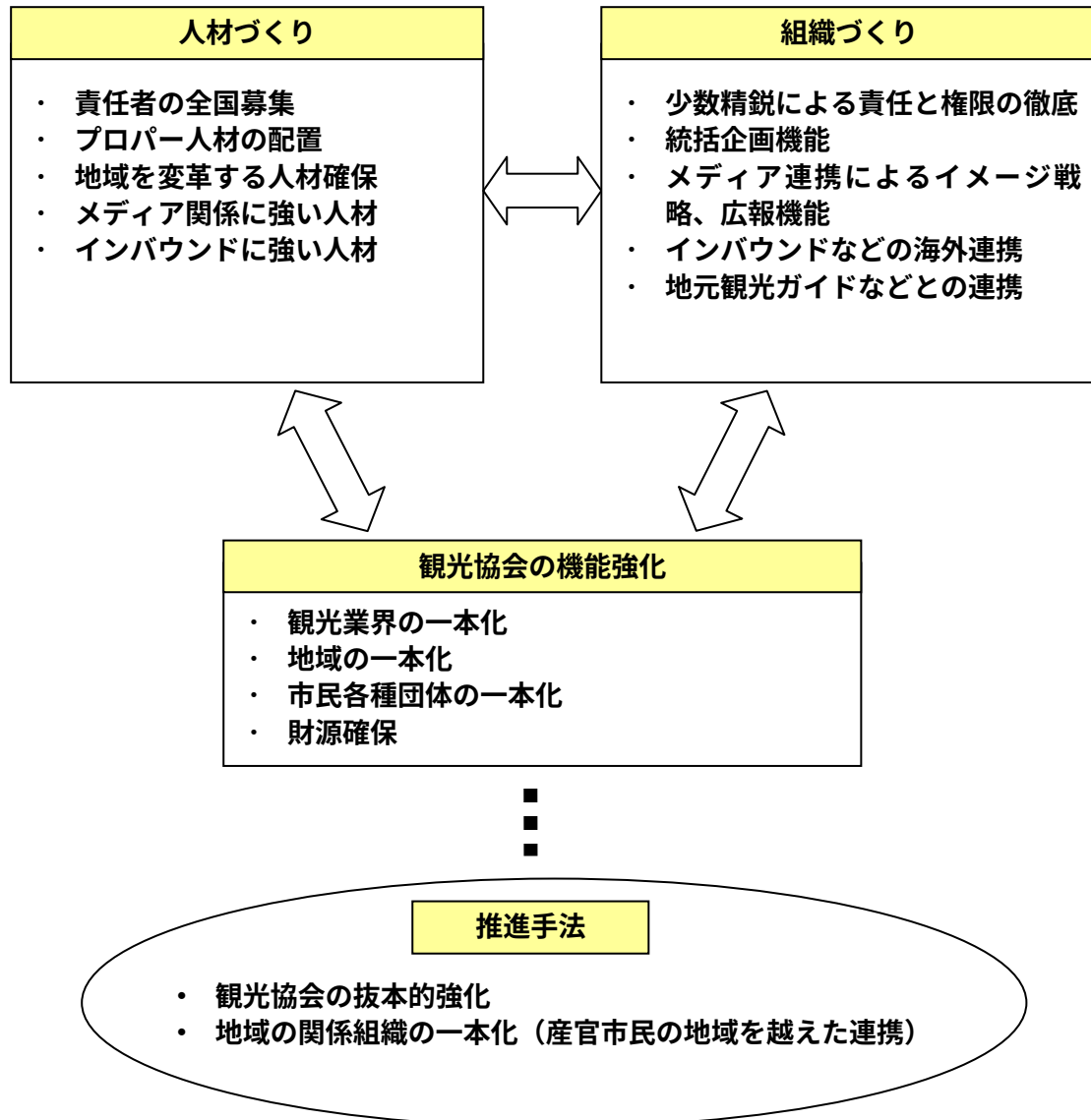
京丹後市のふるさとの魅力を味わってもらうために、観光業者だけでなく行政・市民も一体となった人と人のつながりを大切にした手作りの観光を創造、提供します。きめ細かい体験型の観光づくり、人が中心となった心あたたまる案内、まち歩きなどの地域の人々が自らの手でつくる観光です。

◇図13 手作り（極上）のふれあい観光 戦略イメージ



アクションプランを推進するにあたって、人材や組織の効率的な運営をはかるため、これまでの体制や人材を抜本的に強化します。

◇図14 実践的な組織強化 戦略イメージ



第4章 地域別計画

地域別計画は、全市を対象とした将来ビジョン、アクションプランとともに、地域の現状や課題、特徴を踏まえて、地域別に関係者が一体となって、取り組む内容を整理するものです。

1 地域別計画の目標とテーマ

地域	目標	テーマ
峰山	京丹後市の都市機能が集積した中枢拠点として、産業観光への取り組み、スポーツ施設の活用や丹後ちりめんをテーマとした歴史のまち歩きの整備などを進めます	1 「産業観光とスポーツ観光の推進 2 丹後ちりめんと歴史を活かした「まち歩き」観光の推進 3 玄関口峰山駅の改善
大宮	京丹後市の玄関口としての機能を充実することにより、地産地消などによる豊かな農業や自然環境を活かしたほんまものの観光に取り組みます	1 アグリツーリズムの推進 2 「京丹後の玄関口」としての機能整備 3 各種資源等の有効活用
網野	京丹後市の宿泊温泉拠点としてホスピタリティを向上し、海や漁業、歴史資源、丹後ちりめん機屋の街並みなどと一体となった滞在型の整備を進めます	1 豊富な資源、施設の有効活用 2 公共交通と観光・散策ルート整備
丹後	海や漁港の景観、グルメなどの魅力を活かしつつ、まち歩きなどによる滞在環境、海岸を周遊できる整備を行います	1 「まち歩き」による魅力発信 2 観光資源の有効活用 3 交通便利性の向上と周遊魅力の向上
弥栄	高原の自然、歴史・史跡、温泉や農業を活かした施設などの有効な連携により、内陸の魅力ある観光活動を促進します	1 花、山野草を中心とした自然の魅力発信 2 歴史・史跡の活用 3 観光施設を中心とした施設・地域間の連携
久美浜	海岸や久美浜湾の自然景観を活かし、街並みの整備や地元食材による食の魅力に取り組みます	1 久美浜湾と日本海を中心とした資源活用 2 街の活性化と「まち歩き」による魅力発信 3 地元食材の活用

2 地域別計画

(1) 峰山地域 目標：産業観光に取り組みます

①現状・課題、特徴等

現状と課題
・官公署、事業所、工場等の集積地であり、観光要素は少なくビジネスでの宿泊者が多い ・国内最大規模の古墳をはじめ、神社、寺院などの見どころが多い ・スポーツ施設、文化施設が整備されており、観光への活用も考えられる ・住民の観光に対する意識がやや低い

主な観光エリア	特 徴	主な観光要素
市役所周辺	神社、丹後ちりめん工場、商店などまち歩きの魅力	金刀比羅神社、御旅市場（日本一短いアーケード）、ちりめん工場、機械金属工場、ものづくりパーク、薬師ヶ丘さくらの森公園（震災記念館）、峰山総合公園、酒蔵
天女の里周辺	羽衣天女伝説の地	天女の里、乙女神社、磯砂山、慶徳院（襖絵）、ウッディいさなご（体験）
その他	峰山途中ヶ丘公園、赤坂今井墳墓（国指定史跡）、禅定寺（丹後ちりめんゆかりの寺）	

②地域計画

1. 「産業観光」と「スポーツ観光」の推進
①規模、質とも向上している機械金属工場の見学を観光と結びつける ・ものづくりパークから複数の工場見学のルートを設定し発信する ・機械金属工場関係組織への協力要請を行い、土産物の開発、効果的な仕組みづくりなどを検討する ・まずは子どもをターゲットに考える ②途中ヶ丘運動公園、峰山総合公園など充実したスポーツ施設を活用した誘客の推進 ・スポーツ施設の情報をひとまとめにし、関係者へのPRや地元宿泊施設等で発信を行う ・大規模なスポーツ大会の誘致、合宿の誘致を推進する
2. 「丹後ちりめん」の歴史を活かしたまち歩き観光の推進
①金刀比羅神社、御旅市場、丹後ちりめん工場などを中心としたまち歩きの推進 ・コース内への食べ物スポット、トイレ、休憩処等の整備 ・御旅市場に丹後の食を集め、食の魅力をPRする ・レンタサイクルの実施 ②史跡・街並み等の整備 ・赤坂今井墳墓、湧田山古墳など、代表的な史跡を絞って看板、駐車場などの整備を行う ・歴史ある街並み景観保全のための取り組みを検討する
3. 玄関口「峰山駅」の改善
①観光玄関口として駅の機能向上、イメージアップに取り組む ・売券所を1階に移転させるなど、利用しやすい施設となるようハード面での改善の工夫 ・売店運営や窓口業務の改善など、観光客の視点に立った適切な管理運営 ・案内看板、観光情報の充実を図る

(2) 大宮地域 目標:アグリツーリズムを推進します

①現状・課題、特徴等

現状と課題
・国道312号周辺の商店、農業等の産業の集積地で、観光の要素は少ない ・宮津天橋立ICから京丹後市への玄関口にあたり、観光客の通過が多い ・ブナ林などの豊かな自然が広がり、コシヒカリの産地であり、観光での有効活用が可能 ・丹後周辺を観光する上での中心的位置にあたり、観光の拠点となりうる ・住民の観光に対する意識がやや低い

主な観光エリア	特 徴	主な観光要素
丹後マスターズ ビレッジ周辺	市入口にあたり交通の利便 性が良い	おおみや小町温泉、大宮ふれあい工房（体 験）、大宮売神社、峯空園（桜スポット）、 丹後ちりめん
明田、五十河周 辺	ブナ林を代表とする豊かな 自然とこだわり農業	内山ブナ林（近畿最大規模、福寿草、あじ さい）、小町公園（小野小町ゆかりの地）、 季楽里（体験工房）、お米（特A、こだわ り米）、名水、大宮森本IC設置予定地
その他	平地地蔵、国道312号線の飲食店、イチゴ狩り	

②地域計画

1. 「アグリツーリズム」の推進
①地元の農作物提供の推進 ・関係組織で「地産地消協議会」を設置し、システムの構築や販売ルートを確認させ、地元農作物の流通を図る ・竹炭米の例など、ストーリーやこだわりをもったブランド化の取り組みを推進する ②ともに汗をかき、地元の人とふれあう、ストーリーのある体験の推進 ・古民家等を利用した宿泊や農家民泊と自然ふれあい体験・農業体験の実施 ・NPO法人を核とした体験活動の推進 ・農業の体験、海での体験など組み合わせたメニューの提供など、山・農と海との連携を推進する
2. 「京丹後の玄関口」としての機能整備
①案内・情報提供機能の強化 ・既存施設を活用した情報、トイレ、バス駐車場、土産物がそろったインフォメーションセンター整備を検討する ・「観光案内交番」など、飲食店等における観光情報発信の充実、協力施設の拡大を図る ②道路環境の整備 ・大宮森本IC設置に伴う延利、森本周辺の施設、環境整備と丹後町方面へのアクセスルートの検討 ・大宮森本ICに関連した新たな施設等が整備される際、地元のコンセンサスと景観面での規制・配慮も考える ・国道312号線沿いの清掃、花運動、景観保全、街路灯整備など、地域による取り組みを推進する
3. 各種資源等の有効活用
①自然、施設、地理的条件の積極的な活用 ・自然公園ふれあい全国大会（H21開催）を機に内山ブナ林散策コースの設定とガイド案内を実施 ・川遊び体験ができる環境整備（明田、延利、五十河周辺） ・大宮、峰山のスポーツ施設を活用した誘客と滞在の促進 ・丹後地域の中心地で周遊の拠点となりうる立地的条件を活かした取り組みの推進

(3) 網野地域 目標:宿泊を中心とした滞在型観光地を目指します

①現状・課題、特徴等

現状と課題
・市内で最も観光客が多い地域である ・海側に多くの温泉地、海水浴場が並び、観光の中核を担っている ・海、温泉、歴史、丹後ちりめんなど、あらゆる観光資源に恵まれている ・カニと温泉で宿泊・昼食客は多いが、地域での滞在時間は短い ・宿周辺などでのまち歩きのできる環境整備が不十分 ・魅力的な景観、観光資源を有する浜詰・浅茂川を結ぶ府道の活用が不十分 ・網野駅周辺の賑わいがなく、玄関口としての印象が悪い

主な観光エリア	特 徴	主な観光要素
木津温泉周辺	京都府最古の木津温泉を有する、歴史ある温泉地	温泉（京都府最古、足湯あり）、カニ、松本清張小説「Dの複合」舞台、果樹、ホテル
浜詰・夕日ヶ浦周辺	カニと温泉で市内一の観光地に成長	温泉（外湯あり）、カニ、夕日ヶ浦（日本の夕陽百選）、海水浴
浅茂川・小浜地区	八丁浜を中心に、多彩な観光要素が存在	海水浴、カニ、温泉（外湯あり）、浦島伝説（浦嶋太郎、乙姫）、丹後ちりめん（工場、織り元多数）、離湖、浅茂川漁港、八丁浜シーサイドパーク、サーフィン、牧場
掛津・琴引浜周辺	日本一の鳴き砂の浜、琴引浜を有する	琴引浜（国名勝・天然記念物）、鳴き砂文化館、海水浴、カニ、温泉（砂浜に湧き出る）
その他	網野銚子山古墳（国指定史跡）、静の杜・静神社（静御前ゆかりの地）、郷村断層（国天然記念物）、切畑地区（自然豊かな山里と名水、ホテル）、霧降りの滝、丹後バラ寿司、子午線	

②地域計画

1. 豊富な資源、施設の有効活用
①海、漁港、さかな屋と観光を結びつける ・セリ見学の実施とさかな屋（浅茂川地内）を観光客向けに変える ・浅茂川地区などでのまち歩きの推進と、「魚」をキーワードにした観光ルート開発 ②静神社、嶋児神社、銚子山古墳など歴史スポット、史跡の活用 ・各史跡における道路、案内板、駐車場の必要な整備 ・静神社を夕日のスポットとしてもPRする ・旧網野町が整備した「ふるさと自慢百選」看板の老朽化に伴う改修 ③八丁浜シーサイドパークの有効活用 ・全国レベルのグラウンドゴルフ大会など、観光振興につながるスポーツ大会の実施
2. 公共交通と観光・散策ルート整備
①海岸線を中心としたルート整備 ・丹後町から続く三津～浜詰までの海岸線を「夕日の道」として整備、PRする ・浅茂川～浜詰間の府道を観光ルートとしてPRする ・網野駅前～浅茂川間の府道バイパスのイルミネーション事業を活かした取り組み ②まちの駅、立ち寄りスポット等の整備 ・「まちの駅」など、店の軒先を利用した休憩所、お茶飲み処、散策ルート上のトイレ整備 ・ちりめん傘の貸し出しなど特色ある取り組み

(4) 丹後地域 目標:海、漁港を活かした魅力に磨きをかけます

①現状・課題、特徴等

現状と課題
・立岩、屏風岩、丹後松島などの奇岩とリアス式海岸が織りなす市内随一の海岸景観 ・ブランドガニ「間人ガニ」の産地として、全国的に知名度が高い ・天橋立・伊根を結ぶ「丹後半島一周」のルート上にあり多くの周遊客が通過する ・多くの観光客が通過するが、滞在につながらない ・間人の街並み、漁港など、雰囲気ある風景が十分に活かされていない ・駅から遠い上、公共交通による周遊の利便性が悪い ・美しい海岸景観は眺めるだけで、十分な活用がされていない

主な観光エリア	特 徴	主な観光要素
間人・竹野周辺	間人ガニの産地、丹後の象徴・立岩のある海岸	カニ（ブランド間人ガニ）、温泉、道の駅、立岩、屏風岩、間人港、まち歩き、海水浴、キャンプ、古代の里資料館、神明山古墳（国指定）、間人皇后・聖徳太子母子像
宇川・袖志周辺	抜群の海岸景観、灯台がある市内随一の景勝地が続く	経ヶ岬灯台（日本の灯台50選、近畿最北）、丹後松島、袖志の棚田（日本の棚田百選）、碇高原（ステッキハウス）、温泉、海水浴、魚釣り、アユ
その他	丹後半島一周、依遅ヶ尾山、山野草	

②地域計画

1. 「まち歩き」による魅力発信
①間人、中浜などの漁師町の「まち歩き」の推進 ・漁港、セリ、漁業に関する人の風景を活かす取り組みや地元の人とのふれあいの機会設定 ・道の駅において、車を降りて街をあるく仕組み、情報提供、環境づくりを推進する ・街中、路地をきれいに保つ取り組み ・まち歩きマップの整備、宿、観光施設でコース、ガイドなどの情報提供の実施
2. 観光資源の有効活用
①経ヶ岬灯台のさらなる活用 ・灯台一般公開の回数・期間の増加、「かわらけ投げ」の実施など、さらなる魅力・発信力アップの取り組み ・灯台、よし野の里、碇高原をルート化、セットにした発信 ・駐車場トイレの早急な改修 ・経ヶ岬行きの路線バスの増便（伊根方面、間人方面とも） ②海とその恵みをより一層活かす取り組み ・変化に富んだ海岸線の景勝地を海から見せる遊覧船の取り組み推進 ・各種漁業体験、漁師体験、漁家民宿など、漁業者と連携した取り組み推進 ・自然公園ふれあい全国大会（H21開催）を機に丹後松島周辺散策コース設定とガイドの実施 ・カニに勝る食材はない、世界一のカニの街を目指す ・屏風岩へ「日本一のしめ縄」をかける
3. 交通利便性の向上と周遊魅力の向上
①滞在・周遊促進のための交通、道路整備 ・丹後町内を周遊できる車の運行や着地型ツアーの実施、路線バスによる観光コース設定 ・碇高原、丹後松島、久僧などで広がっている花運動の取り組みを広める ・間人漁港へマイクロバスで行けるよう、アクセス道路の整備を行う

(5) 弥栄地域 目標:花、山野草を中心に自然と歴史の魅力発信に努めます

①現状・課題、特徴等

現状と課題
・丹後あじわいの郷を中心に、弥栄あしぎぬ温泉、森林公園スイス村など観光施設への誘客が中心 ・特に野間地区は自然の宝庫であり、山野草、福寿草など素材は魅力的である ・駅がなく、また公共交通の便が悪いため、施設間の周遊が困難 ・京都エコエネルギー研究センター、太鼓山風力発電など、エコスポットとして視察・見学が増加 ・主要施設への入込客が下降している ・魅力的な素材が十分に活用されていない

主な観光エリア	特 徴	主な観光要素
野間、スイス村周辺	豊かな自然に恵まれた素朴な集落と高原リゾート	スイス村（キャンプ、スキー、環境学習、体験、太鼓山風力発電）、山野草、福寿草、細川ガラシャ（隠棲の地の碑、ガラシャ米）、野間そば、野間川（アユ、アマゴ）、ホテル
あじわいの郷周辺	あじわいの郷と温泉による集客	丹後あじわいの郷（道の駅、自然・農業・食の体験、太陽光発電）、弥栄あしぎぬ温泉
その他	大田南古墳群（青龍3年鏡）、京都エコエネルギー研究センター、牧場、酒蔵	

②地域計画

1. 「花」、「山野草」を中心とした自然の魅力発信
①丹後あじわいの郷、スイス村、野間地区を中心とした花、山野草の魅力発信 ・スイス村のゲレンデを利用して日本一の芝桜を目指す ・丹後あじわいの郷の花の魅力アップと発信強化を行う ・野間、味土野地区に自生する福寿草の魅力を発信するとともに、栽培・販売の検討 ②須川、味土野地区の山野草、野間川を活かした取り組みを推進する ・自然公園ふれあい全国大会（H21開催）を機に野間山野草散策のコースの設定とガイドの実施 ・山菜採り、筍掘りなど、山の食材を採取する取り組みの体験事業化と、食への有効活用 ・イワナ養殖の開始に伴い、野間川の観光面での活用をより一層推進する
2. 歴史・史跡の活用
①多くある古墳などの史跡の価値、魅力を発信し活かす ・黒部銚子山古墳、奈良岡遺跡、遠慮遺跡、太田南古墳群などの一定整備と維持管理、ガイドの実施 ・細川ガラシャの里について、京丹後七姫ゆかりの地の一つとして一定の整備と維持管理
3. 観光施設を中心とした施設・地域間の連携
①あじわいの郷、スイス村、あしぎぬ温泉を中心とした施設、地域間のネットワーク形成 ・関係施設等で協議会を組織し、施設間の連携方策、周遊の仕組みづくりなどを検討し実施する ・環境関連施設を使用した観光・環境・農の連携。バイオマス発電施設、牧場、工房など既存施設の観光での活用 ・観光に関連づけることができる民間人、施設を掘り起こし

(6) 久美浜地域 目標:久美浜湾とかぶと山をより一層活用します

①現状・課題、特徴等

現状と課題
・穏やかで風光明媚な久美浜湾とかぶと山からの絶景は他地域にない魅力 ・宿泊施設は湊宮地区に集中しており、民宿の割合が多い ・カニに加え、カキ料理が冬の食の魅力となっている ・全長6 kmのロングビーチと、ユウスゲ、トウテイランなど貴重な海浜植物がある海岸の景観が魅力 ・久美浜湾でのカヌー、ドラゴンカヌーといった特色ある体験ができる ・久美浜湾、かぶと山を活用した取り組みが不十分である ・久美浜一区の街並み整備を行っているが、観光客がまち歩きするには魅力が少ない ・夏の海水浴、冬のカニ・カキ以外の誘客力が弱い

主な観光エリア	特 徴	主な観光要素
久美浜湾南側	稲葉本家を中心とした歴史ある街並みとかぶと山の景観	久美浜湾、かぶと山、街並み、稲葉本家、如意寺（関西花の寺）、浜公園、カヌー、ドラゴンカヌー、熊野神社（川上摩須郎女ゆかりの地）
久美浜湾北側	海水浴と温泉、日本海と久美浜湾に面する宿泊エリア	海水浴（ロングビーチ）、久美浜湾、温泉、カニ、カキ、カキ漁、魚釣り、ゴルフ場、ユウスゲ、トウテイラン、マリンプラザ
旭・蒲井地区	自然豊かな隠れ家的スポット	海水浴、温泉、ツリーハウス、クラインガルテン、魚釣り
その他	奥山自然たいけん公園、果樹（平田、箱石地区）、牧場、スサノオノミコト	

②地域計画

1. 久美浜湾と日本海を中心とした資源活用
①かぶと山展望台からの絶景の活用 ・歩いて上がって絶景を体感してもらえるよう、積極的な情報提供とイベント等での登山機会の増設 ・自然公園ふれあい全国大会（H21開催）を機にかぶと山散策コースの設定とガイドの実施 ・湊宮方面からの誘導、登山ルート案内など、不足している看板の整備 ②久美浜湾の有効活用 ・遊覧船、シータクシー、屋形船などの久美浜湾内での運航 ・湾岸沿いへ桜、もみじなど植樹し、湾岸景観の魅力向上を図る ・カキ養殖、白鳥飛来などの景観活用 ・景観を活かした飲食施設の整備促進 ③日本海沿岸の貴重な海浜植物の活用 ・ユウスゲと夕日景観、トウテイランなど、貴重な海浜植物や山野草の活用
2. 街の活性化と「まち歩き」による魅力発信
①街並み保存・活性化を行い、観光面へ活用する ・久美浜一区を中心とした街並み保存活動を推進しながら、まち歩きコースを設定する ・空き家、更地の活用、空き農地と住宅をセットにしたレンタル等による商店街の活性化 ・グループホーム、ケアハウス、短期滞在施設など、セカンドライフの場所として発信し交流・定住人口の増加を図る
3. 地元食材の活用
①カキ、いさざ、山野草、砂丘地を利用した野菜、果樹など地元食材の有効活用 ・季節感にこだわった食の提供 ・山、里の食材の活用、魚介類流通の仕組み改善など、地産地消の仕組みの検討

◇図ー15 計画マップ

- 海岸景観&宿泊・温泉エリア
- 海の魅力活用促進エリア
- アグリツーリズム推進エリア
- 山野草活用促進エリア
- 産業観光推進エリア
- エコツーリズムスポット

- ▲ 自然公園ふれあい全国大会モデルコース
- ◆ まち歩きツーリズム推進地区
- ★ 花の魅力推進スポット
- ジオツーリズムスポット
- スポーツ観光利用施設
- ★ 京丹後七姫ゆかりの地

